

基調講演

テーマ：人口減少社会における地域再編と社会資本整備のあり方
－地域再生の具体像－

講師：島根大学教育学部 准教授 作野 広和



略歴

1996年3月 広島大学大学院博士課程単位取得退学

1996年4月 広島大学文学部助手

1997年4月 島根大学教育学部講師

2001年10月 島根大学教育学部助教授（現・准教授） 現在に至る

この間、放送大学、福岡教育大学、愛媛大学、広島大学大学院、美作大学の嘱託講師を務める

研究活動・著書他

○研究活動の概要

専門は人文地理学。農山村地域における集落構造やコミュニティのあり方に関する研究を中心に行っている。また、島根県、兵庫県では集落レベルの地域づくりに参画し、地域住民とともに協働で地域づくりを実践している。

○著書等

『図説世界の地域問題』ナカニシヤ出版、『地域環境学』古今書院、『地域と人口からみる日本の姿－人口減少社会の行く末－』古今書院、『世界地誌シリーズ1日本』朝倉書店 等（いずれも分担執筆）

○役職

日本地理学会協議員，地理科学学会評議員，地域地理科学会編集委員，島根地理学会幹事，島根県中山間地域研究センター客員研究員，農林水産省鳥獣害対策アドバイザー 等

講演概要等

人口減少社会に突入した我が国は，社会，経済，政治・行政等のパラダイムを大きく変化させようとしている。すなわち，人口や経済の成長基調を前提とした社会の仕組みが根本的に崩れ，新しい時代のあり方を模索する期間に突入している。そのため，今後当面の間，我が国は「縮小社会」と向き合う必要がある。当然のことながら，社会資本整備のあり方も再検討が必要となろう。同時に，人々の社会生活の現場である地域も再編成されてくる。具体的には，集積の利益を求めて成立していた都市の存在が相対化され，対局にある農村の魅力が上昇してくることは間違いない。地球環境問題や安全・安心の社会を目指すのであれば，一層その傾向が強まると思われる。

一方，農村では農業の衰退，過疎・高齢化，耕作放棄地の増大，鳥獣害の増大など厳しい実態がみられ，窮地に追い込まれている。我が国の農村は都市住民からの熱い視線を受けながらも，一層の小規模・高齢化していくことが予想されている。このような状況の中，都市と農村がいかなる関係にあるべきかについて，国民的議論が必要になってくると思われる。

さらに，小規模・高齢化の波は農村のみならず，都市の中心市街地や郊外住宅団地にも襲いかかっている。このように，わが国はいたるところで地域の空洞化がみられ，同様の地域的問題が発生していると思われる。そのため，我が国では，今後の数十年間で地域構造は劇的に変化するものと思われる。

本講演では，このような一連の地域構造の変化について見通しを述べた後，農村や都市でみられる地域問題について具体的に紹介する。その上で，今後の国土構造と社会資本整備のあり方について，あるべき姿を提示する。